

第2回 名古屋市新たな劇場の 整備・運営等検討懇談会

令和6年7月17日

観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課

目 次

新たな劇場の基本計画にかかる整備・管理運営計画（案）について

- 1 前回の検討内容
- 2 整備計画（案）
- 3 管理運営計画（案）
- 4 今後の予定

1 前回の検討内容

1 前回の検討内容

検討経緯と新たな劇場開館までの流れ

区分	内容	有識者意見聴取
令和元年度～ 令和 3年度	基本構想の検討	市民会館の整備検討懇談会 (10回開催)
令和 4年 2月	名古屋市新たな劇場の基本構想策定	
令和 4年度～ 令和 6年度	基本計画の検討	名古屋市新たな劇場の整備・運営等検討懇談会(2回)
令和 6年11月末頃	新たな劇場の基本計画策定	
	事業者公募資料の作成 ↓ 事業者公募・選定 ↓ 設計・工事 ↓ 新たな劇場の開館	名古屋市新たな劇場の整備・運営等検討懇談会(第3回～)

1 前回の検討内容

第1回 名古屋市新たな劇場の整備・運営等検討懇談会(令和6年3月19日)での検討内容

(1) 検討経緯

ア 市民会館の現状及び課題

- ・立地環境 : 金山駅から約400m、地下鉄と地下連絡通路で直結、周辺に文化芸術施設が集積
- ・施設概要 : 築51年、広い舞台面積と舞台機構を持つ大ホール(2,291席)、中ホール(1,146席)
- ・施設面の課題 : ホールの音性能が低い、劇場とまちの関係性が希薄、老朽化、低い快適性・利便性
- ・管理運営面の課題 : ホール不足による高利用率・鑑賞機会の喪失⇒800～900席の第3ホールを新設

(2) 新たな劇場の基本的な考え方 (基本理念と基本方針)

ア 基本理念

ミッション

文化芸術の裾野拡大 (劇場文化の浸透)

目指す姿

人々が楽しみ、引き込まれ、心打たれる 文化の薫り高い名古屋の心つながる象徴拠点

イ 基本方針

【基本方針1】

市民が気軽に訪れる、
人と文化芸術の交流結節拠点
～感動と出会い、

まちと繋がる、開かれた劇場～

【基本方針2】

国内外から注目され、
多くの市民の
誇りと親しみを呼び起こす

トップクラスの上演施設

【基本方針3】

市内の多様な文化活動を
支え、促進する、

**名古屋発/初の
文化芸術の中核となる施設**

ウ 方向性

市民会館大・中ホールの
優れた機能の

継承・発展

市民会館が抱える
施設面・管理運営面の

課題解消

文化芸術の創造、普及・育成
まちの拠点としての

機能強化

エ 機能強化のために目指すもの

アーティストに開く

市民に開く

まちに開く

1 前回の検討内容

第1回 名古屋市新たな劇場の整備・運営等検討懇談会(令和6年3月19日)での検討内容

(3) ホールの目指す姿と事業方針

ア 金山まちづくりのコンセプト：

人・文化・芸術とともに育つまち ～にぎわいと感性あふれる交流創造の場づくり～

イ 新たな劇場のホール配置：

- ・古沢公園・市民会館エリア（第1・第2ホール）
- ・アスナル金山エリア（第3ホール）

ウ 文化芸術の施策展開の方向性：

新たな劇場の3ホールを核として、金山駅周辺の文化芸術施設や地域団体等と連携した面的な文化芸術施策を展開し、文化芸術の浸透を図る

エ 事業展開イメージ

第1・第2ホール：

現在の利用状況を踏まえ貸館中心とする、上質かつ多様なコンテンツを積極的に誘致する

第3ホール：

貸館として市内ホール不足の解消を果たしながら、新たな劇場の独自性を発信する

まちとの連携：

オープンスペースや屋外、まちなか等で幅広い自主事業を展開
金山エリアに点在する文化芸術施設と連携した事業展開をし、回遊性の向上、活性化を図る

1 前回の検討内容

第1回 名古屋市新たな劇場の整備・運営等検討懇談会(令和6年3月19日)での検討内容

○新たな劇場に期待される効果

アーティストにもたらす効果

- 名古屋の舞台芸術を中心とした文化芸術が活性化することで、アーティスト等の活躍の場が広がり、**文化芸術団体の持続的発展への貢献が期待される**
- 新たな劇場がアーティストにとってのチャレンジや成長できる場となり、**市全体の文化芸術活動のレベルアップと一層の活性化に繋がる**

市民にもたらす効果

- 舞台芸術での利用が広し、話題性の高い魅力ある公演など、演目のバリエーションが増え、**市民の文化芸術に対する関心が高まる**
- 本物の舞台芸術に触れ、豊かな創造性や感性を高めることで、**次世代の文化芸術の担い手の育成や子どもたちの成長に資する**
- 鑑賞や練習などの目的がなくても、居心地よく、一日中過ごしたくなる場となることで、市民が集い、憩い、交流が促進される

まちや社会にもたらす効果

- 文化芸術やエンタメが充実することで都市魅力が高まり、**観光消費の誘発やまち全体の価値の向上により、経済が活性化する**
- トップレベルの公演を継続的に行うことで、名古屋への来訪意欲が高まり、国内外からの来訪者や転入人口の増加が期待される
- 新たな劇場が整備され、アーティストや市民が交流することで、**文化芸術・クリエイティブ産業が発展し、新たな地域産業の柱となる**

- 新たな劇場で生み出された創造的活動が、**新たな文化芸術価値を創出**する
- 文化芸術の裾野が拡大することで、更に文化芸術への投資が進み、**持続的な文化芸術の発展に寄与**する
- 新たな劇場への戦略的投資により、名古屋市の文化芸術の振興と経済活性化へつなげる

1 前回の検討内容

第1回 懇談会での主な意見(抜粋)

○新たな劇場の基本的な考え方

- ・ アーティストだけでなく、制作者や舞台技術者にも開いた施設にして、クリエイティブ・リンク・ナゴヤや市事業団なども交えて、文化芸術のエコシステムを促進する機関やオルグウェアをつくれると良い（林委員）
- ・ 新たなニーズに合わせて新しいものを作る良い機会。 駅前との一体的な開発等で若者が集まる街に（遠藤委員）
- ・ 現状で練習施設が不足。 文化芸術の作り手育成、市民が集まれる機能、活動が周囲から見える等が必要（勝又委員）
- ・ （市民会館）単独で考えるのではなく、 連携することで充実を図っていく観点が必要（梶田委員）
- ・ 演目絞り込みによる 特徴化と多目的ニーズのバランス等、市民会館の役割を全体の中でどう整理するか（福島委員）
- ・ 各ホールの演目ジャンルをある程度決め、ターゲット整理すべき。絞り込んでも多目的に対応可能（勝又委員）

○ホールの目指す姿と事業方針

- ・ 基本構想時の懇談会では、市民会館と県芸との役割分担として市民会館はポピュラリティのある演目対応が良いという議論があった。 現在の特性を継承し、広く使いやすいものを市民会館では考えた方がよい（遠藤委員）
- ・ 自主事業で採算をとるのは一般的には難しい。 採算性より市民に届けたいコンテンツを提供するという公共的な役割で納得してもらうことになる。収益優先での運営はどんどん大衆化していくのも課題（勝又委員）
- ・ 若者がアートで生計を立てるためには鑑賞者の育成、文化芸術に関心の高い市民の醸成が必要。自主事業はその循環を創出する第一歩であり、 専門人材・アーティスト・鑑賞者育成など多面的な取り組みが必要（梶田委員）
- ・ すでに名古屋市に蓄積された知見をもとに、 クリエイティブ産業における人材のグランドデザインを上位計画である文化芸術推進計画の中で謳っていく必要がある（林委員）
- ・ 旧ボストン美術館との連携、即ち 金山駅南北の連携、美術とアートの連携に向け、 両者を結ぶような機能や仕掛けを考え、相乗効果があるまちづくりを行うことが必要（福島委員）

1 前回の検討内容

第2回 懇談会の検討内容

○第1回 検討懇談会

- 1) 現状と課題
- 2) 新たな劇場の基本的な考え方
- 3) ホールの目指す姿と事業方針



○第2回 検討懇談会

1) 整備計画（案）

第1回検討懇談会で議論した新たな劇場の基本的な考え方を実現し、期待される効果を発現するために、まちとの関係性を考慮した劇場の整備のあり方や、新たな劇場が備えるべき整備水準について検討する。

2) 管理運営計画（案）

第1回検討懇談会で議論したホールの目指す姿と事業方針を実現する市内文化施設の中核的施設としての新たな劇場の管理運営のあり方や、金山地区の2つのエリアに分散して整備する新たな劇場の管理運営のあり方について検討する。

2 整備計画（案）

- (1) 新たな劇場の施設構成（案）
- (2) 整備エリア別の機能構成（案）
- (3) 新たな劇場を核とした文化芸術施策展開のイメージ（再掲）
- (4) 機能配置イメージ
- (5) 各ホール機能の役割
- (6) 各ホールの機能（舞台）
- (7) 各ホールの機能（客席）
- (8) 各ホールの機能（ホワイエ）
- (9) 各ホールの機能（楽屋）
- (10) 各ホールの機能（搬出入・その他）
- (11) 創造・活動拠点機能／交流機能を担う施設
- (12) 周辺環境との関係
- (13) その他配慮すべき課題

2 整備計画

(1) 新たな劇場の施設構成（案）（再掲）

基本理念や基本方針をはじめとした新たな劇場の考え方を実現するため、次の機能や施設を整備します。

機能	基本コンセプト	施設名称		概要
ホール機能	聴くホール	第1ホール		- 客席数2,000～2,200席を想定 - 本市の文化芸術を象徴し、大ホールの劇場機能を継承するホール - 音楽を中心とした国内外アーティストの質の高い演奏を「聴くホール」
	観る・魅せるホール	第2ホール		- 客席数1,300～1,500席を想定 - 演劇・舞踊から伝統芸能の公演まで中ホールの劇場機能を継承するホール - 市民の文化芸術活動のハレの場として選ばれる「観る・魅せる」ホール
	体感するホール	第3ホール		- 客席数800～900席（スタンディング1,700～1,800名）を想定 - 最先端の舞台装置による先駆的な演目や舞台・客席を一体的に使った演出など、演者と観客の一体感を創出する「体感するホール」
創造・活動拠点機能 ／ 交流機能	あらゆる人々の交流結節拠点	スタジオ		- 音楽・演劇・ダンス等の練習の場 - 最先端の演出にも対応可能な音響等の設備を備え、本番利用にも対応可能 - 各ホールのリハーサル室を兼ねる
		練習室		合唱や吹奏楽、バンドなどの電気楽器、ダンス等を練習できる空間
		会議室		- 各種会議や研修等、多用途での利用が可能 - 各ホールの控室としても利用可能な配置とする
		共通ロビー		- 施設全体の共用ロビー空間 - 鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる、常にかかれた場
		交流スペース にぎわい・	イベント・コミュニティスペース	共通ロビーに面した共用部に、日常的にイベント開催可能なスペースを設け、にぎわい創出の場とする
			飲食・物販スペース	共通ロビーや通りに面した位置に、併設施設としてカフェ・ショップ等を設け、施設のにぎわいと市民の交流を創出する
			情報スペース	共通ロビーに面して市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約したスペースを設け、市民が文化芸術に触れる機会を創出する

2 整備計画

(2) 整備エリア別の機能構成(案) (再掲)

2つのエリアに整備する新たな劇場は、次の機能・諸室により構成します

エリア	考え方	機能	諸室
古沢公園・市民会館 エリア	【エリア】 ・市民会館街区と古沢公園街区を一街区化することにより、新たな劇場と公園による魅力あふれる空間を形成する ・まちに開かれた新たな劇場を中心に、人と文化が行き交う文化芸術交流拠点を目指す 【劇場配置】 ・現市民会館の大ホール及び中ホールが果たしている劇場機能を継承する第1ホール及び第2ホールを配置	ホール機能	・ 第1ホール (2,000～2,200席) ・ 第2ホール (1,300～1,500席)
		創造・活動拠点 機能 ／ 交流機能	・スタジオ ・練習室 ・会議室 ・共通ロビー ・にぎわい・交流スペース ・イベント・コミュニティスペース ・飲食・物販スペース ・情報スペース
アスナル金山 エリア	【エリア】 ・アスナル金山街区と向田町線北側街区において、金山総合駅と新たな劇場を繋ぐ空間を形成する ・交通利便性を活かし、様々な都市機能を高度に集積させ、多様な人が集い楽しむ駅前のにぎわい交流拠点を目指す 【劇場配置】 ・集客性の高いアスナル金山エリアに、先駆的・多目的な利用ができ、実演芸術に適した規模の劇場として多くの需要が見込める第3ホールを配置	ホール機能	・ 第3ホール (800～900席)
		交流機能	・共通ロビー

2 整備計画

(3) 機能配置イメージ

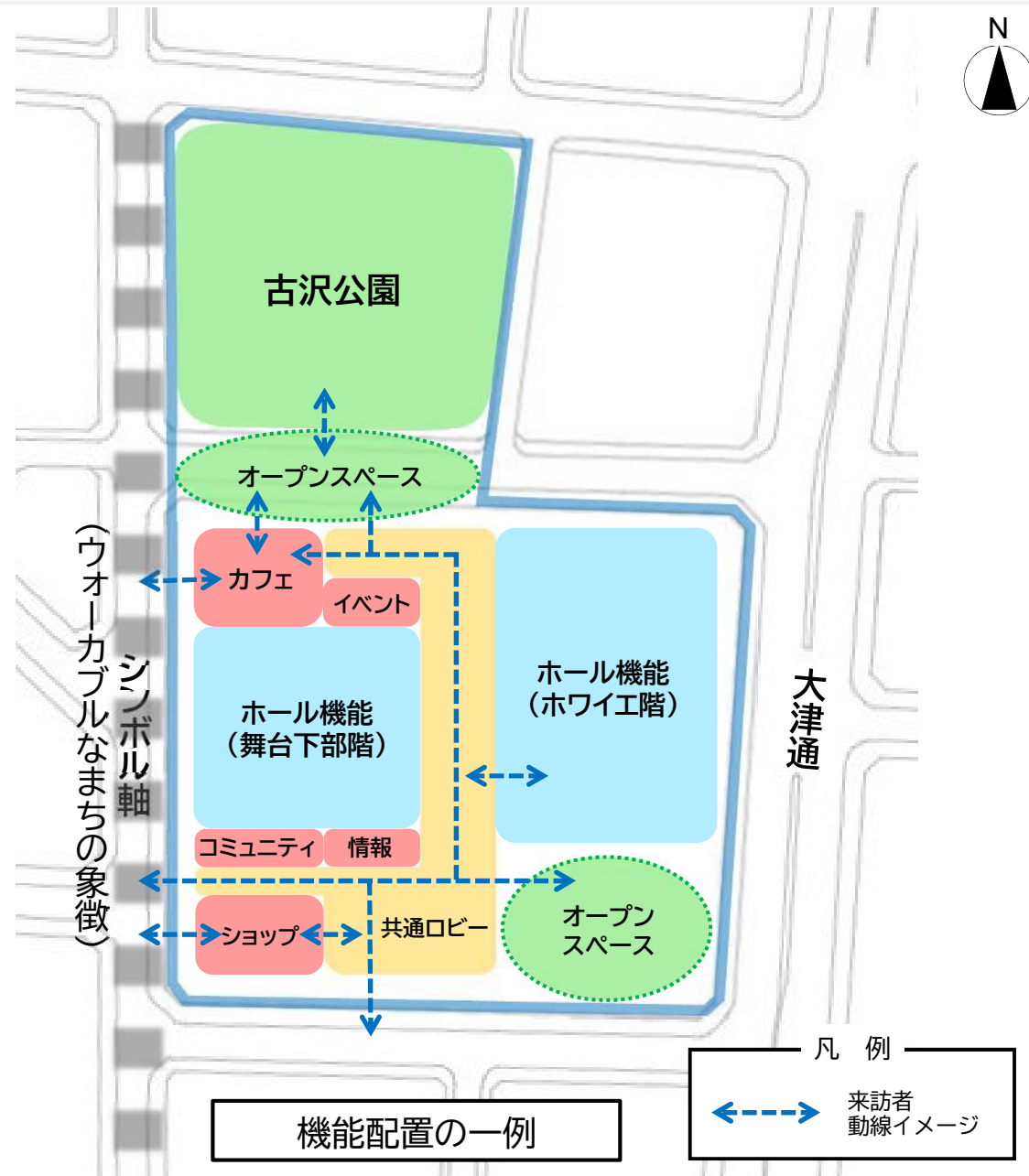


2 整備計画

(3) 機能配置イメージ (古沢公園・市民会館エリア)

配置の考え方

- 敷地内に誰でも気軽に利用でき、文化芸術活動の場として利用できるオープンスペースを配置
- 古沢公園と新たな劇場をオープンスペースでつなぎ、劇場と公園を一体感のある魅力あふれる空間として整備
- まちに開かれた劇場を目指すため、1階部分には共通ロビー、にぎわい・交流スペースを配置
- 共通ロビーは鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる空間とし、まちの回遊性を高めるため通り抜け可能な空間とする
- 共通ロビーに面した共用部に、日常的にイベント開催可能なスペースを配置し、にぎわいを創出
- 共通ロビーやシンボル軸などの通りに面して、市民の来館を促すショップ等や来館者がくつろぎ、交流することができるカフェ等の併設施設を配置
- 共通ロビーに面して市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約発信する情報スペースを配置



2 整備計画

(4) 新たな劇場を核とした文化芸術施策展開のイメージ (再掲)

新たな劇場の3ホールを核として、金山駅周辺の文化芸術施設や地域団体等と連携した面的な文化芸術施策を展開し、文化芸術の浸透を図ります

◆劇場施設等の連携

新たな劇場（3ホール）及び音楽プラザが連携するイベントを開催し、文化施設間の交流を図ります

◆金山南ビル美術館棟との連携

金山南ビル美術館棟の展示内容と関連性が高い催しを第3ホールでも開催し、駅前の集客性を活かした文化芸術の浸透の相乗効果を図ります

◆金山駅周辺の文化芸術施設の連携

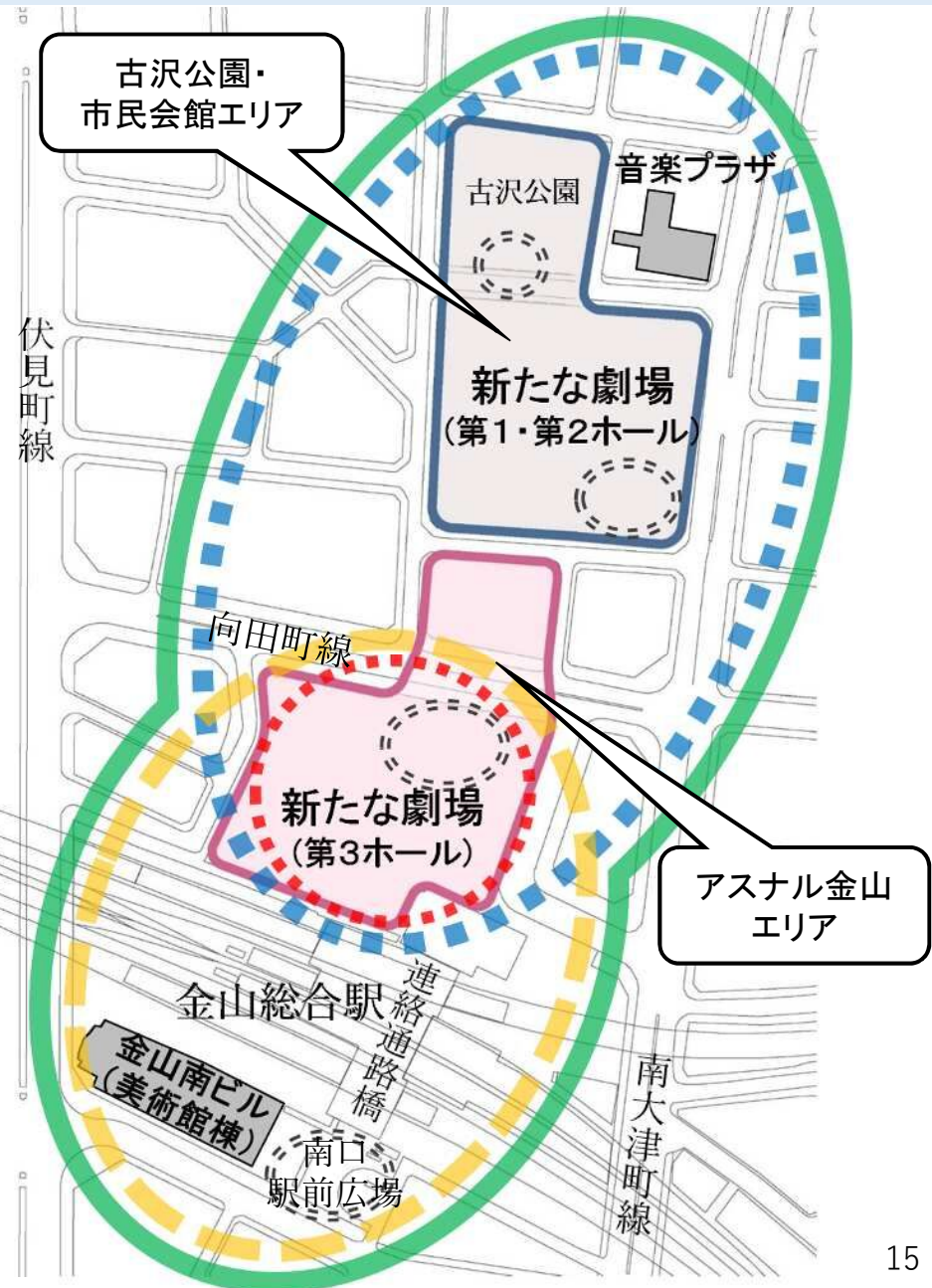
新たな劇場（3ホール）を中心に、金山駅周辺の文化芸術施設や地域団体が連携した催し等により、文化芸術の推進とまちの回遊性の向上を図ります

◆アスナル金山エリアでの連携

第3ホールとアスナル金山エリアの再開発施設の商業施設等が連携して催しや広報を展開し、駅前のにぎわい創出を図ります

◆広場等を活用した文化芸術活動

金山駅周辺の広場・オープンスペースを活用したコンサート等をまちなかで展開し、文化芸術の浸透とまちの魅力向上を図ります



2 整備計画

(5) 各ホール機能の役割

ホール	基本コンセプト	概要
第1ホール	聴く ホール	・名古屋における文化芸術のランドマークとなり、国内外から集客する「名古屋の実演芸術の殿堂」にふさわしい空間として、クラシック等の生音をはじめ、軽音楽等の幅広い音楽公演や各種興行公演に対応し、現市民会館大ホールの機能を継承・発展させる ・特に、<u>音響性能については「聴くホール」としてコンサート専用ホールと遜色ない性能を目指し</u>、国内外のトップレベルのアーティストから選ばれるホールとする
第2ホール	観る・魅せる ホール	・現市民会館中ホールの機能を継承・発展させ、演劇や舞踊から伝統芸能まで多様な公演需要に対応するとともに、<u>市民の多様な文化芸術活動を発表するハレの場や話題性が高く魅力のある各種興行公演の場</u>として、市民や興行主から選ばれる「観る・魅せるホール」を整備する
第3ホール	体感する ホール	・様々な演目に対応し、「体感するホール」としてステージ・客席を一体的に演出可能な空間として整備する ・<u>舞台と客席が一体感を感じやすいコンパクトな空間とし、客席は段床形式だけでなくスタンディング形式にも対応可能な設備を導入する</u> ・多様なジャンルの先駆的な演出にも対応可能な設備を備えたホールとする

2 整備計画

(6) 各ホールの機能（舞台）

	現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール	新たな劇場 第3ホール
基本的な考え方	現ホールの特長である広い舞台と舞台機構を継承するとともに、音響性能の発展を図る		現ホールの特長である広い舞台と舞台機構を継承するとともに、音響性能の発展を図る		多様な演目に対応し、ステージ・客席を一体的に演出可能な空間として機能強化する
舞台形式	プロセニウム形式		プロセニウム形式		アダプタブル（可変）形式
舞台面積	間口20m 奥行21m程度		間口16m 奥行21m程度		間口15m 奥行15m程度
側舞台	上下の両側に演技エリアの約1面分確保		上下の両側に演技エリアの約1面分確保		上下の両側に演技エリアの約半面分確保
舞台機構	舞台中央に大迫り 客席前部にオーケストラ迫り		舞台転換や演出のための 回り盆、迫り		
奈落	主舞台と同規模の奈落		主舞台と同規模の奈落		
音響性能	空調や地下鉄騒音、ホール間の音の干渉	現在の課題を解消し、生音の鑑賞に対応する音響空間	空調や地下鉄騒音、ホール間の音の干渉	現在の課題を解消し、生音の鑑賞に対応する音響空間	
	可動式の音響反射板	トップレベルのオーケストラ公演に対応する可動式の音響反射板	可動式の音響反射板	多様な音楽公演に対応可能な可動式の音響反射板	
その他					舞台設備は高性能・最新機能に加え、将来の拡張・更新に配慮

: 継承
 : 発展
 : 課題解消
 : 機能強化

2 整備計画

(7) 各ホールの機能 (客席)

	現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール	新たな劇場 第3ホール
基本的な 考え方	現ホールの課題を解消し、時代に合わせた鑑賞環境の発展を図る		現ホールの課題を解消し、時代に合わせた鑑賞環境の発展を図る		ホール不足の課題を解消し、多様な演目の鑑賞環境に対応する客席として機能強化を図る
客席数	2,291席	現需要に対応する2,000～2,200席	1,146席	興行公演の需要の高い1,300～1,500席	ホール不足解消に寄与する800～900席
客席幅・配置	狭い座席幅、見にくい配置	ゆとりある座席幅・見やすい座席配置	狭い座席幅、見にくい配置	ゆとりある座席幅・見やすい座席配置	ゆとりある座席幅・見やすい座席配置
親子・障害者用の多目的室		多目的室を複数設ける		多目的室を複数設ける	多目的室を複数設ける
車椅子席	5席	席数の適切な確保と多様な鑑賞環境を選択できるよう極力分散配置	3席	席数の適切な確保と多様な鑑賞環境を選択できるよう極力分散配置	席数の適切な確保と多様な鑑賞環境を選択できるよう極力分散配置
音響性能	空調や地下鉄騒音、ホール間の音の干渉	現在の課題を解消し、生音の鑑賞に対応する音響空間	空調や地下鉄騒音、ホール間の音の干渉	現在の課題を解消し、生音の鑑賞に対応する音響空間	軽音楽などに対応する音響空間
その他	・多様な公演に対応できる常設の脇花道を設置		・本花道を設置可能 ・本花道に「すっぽん」迫りを設置		

: 継承
 : 発展
 : 課題解消
 : 機能強化

2 整備計画

(8) 各ホールの機能（ホワイエ）

	現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール	新たな劇場 第3ホール
基本的な 考え方	現ホールの課題を解消し、来場者の快適性・利便性の発展を図る		現ホールの課題を解消し、来場者の快適性・利便性の発展を図る		集客性の高い駅前複合施設に整備されるホールにふさわしい快適性・利便性を備え、新たな劇場としての機能強化を図る
バリアフリー アクセス	EV等で各客席に自由にアクセスできない	EV等で各階の客席に円滑にアクセス可能	EV等で各客席に自由にアクセスできない	EV等で各階の客席に円滑にアクセス可能	EV等で各階の客席に円滑にアクセス可能
ホワイエの 広さ	各客席階に十分な広さのホワイエを整備		各客席階に十分な広さのホワイエを整備		各客席階に十分な広さのホワイエを整備
トイレ	トイレ不足により幕間に列	利用の集中を考慮したトイレの数を整備	トイレ不足により幕間に列	利用の集中を考慮したトイレの数を整備	利用の集中を考慮したトイレの数を整備
来場者 サービス用の 設備	・主催者控室 ・クローク ・備品庫	現状より下記サービス設備を充実 ・ビュッフェ ・ロッカー ・ドリンク カウンター ・授乳室	・主催者控室 ・クローク	現状より下記サービス設備を充実 ・備品庫 ・ロッカー ・ドリンク カウンター ・授乳室	・主催者控室 ・クローク ・備品庫 ・ロッカー ・ドリンク カウンター
その他		チケットレス入場にも対応		チケットレス入場にも対応	チケットレス入場にも対応

2 整備計画

(9) 各ホールの機能（楽屋）

	現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール	新たな劇場 第3ホール
基本的な 考え方	現ホールの楽屋機能を継承しつつ、時代に合わせた機能の発展を図る		現ホールの楽屋機能を継承しつつ、時代に合わせた機能の発展を図る		先駆的・多目的な演目に対応するホールの楽屋空間として必要な機能を備える
総収容人数	4管編成フルオーケストラへの対応を基本		4管編成フルオーケストラへの対応を基本		ミュージカルの興行公演への対応を基本
楽屋の位置	舞台と同一階の楽屋のほか、同一階ではない楽屋も活用	可能な限り舞台と同一階かつ近い位置に楽屋を整備	舞台と同一階の楽屋のほか、同一階ではない楽屋も活用	可能な限り舞台と同一階かつ近い位置に楽屋を整備	可能な限り舞台と同一階かつ近い位置に楽屋を整備
バリアフリー アクセス	各階の楽屋等に自由にアクセスできない	EVで各階の楽屋等に円滑にアクセス可能	各階の楽屋等に自由にアクセスできない	EVで各階の楽屋等に円滑にアクセス可能	EVで各階の楽屋等に円滑にアクセス可能
トイレ	バリアフリー未対応	バリアフリー対応	バリアフリー未対応	バリアフリー対応	バリアフリートイレを整備
楽屋関係諸室	・舞台技術者控室 ・楽屋事務室 ・シャワー室 ・倉庫 ・洗濯室	現状より下記の諸室を充実 ・ラウンジ ・主催者側スタッフ控室 ・調音室 ・グリーンルーム ・給湯室	・舞台技術者控室 ・楽屋事務室 ・シャワー室 ・倉庫 ・洗濯室	現状より下記の諸室を充実 ・ラウンジ ・主催者側スタッフ控室 ・調音室 ・グリーンルーム ・給湯室	・ラウンジ ・主催者側スタッフ控室 ・調音室 ・グリーンルーム ・給湯室 ・舞台技術者控室 ・楽屋事務室 ・シャワー室 ・倉庫・洗濯室

: 継承
 : 発展
 : 課題解消
 : 機能強化

2 整備計画

(10) 各ホールの機能（搬出入・その他）

	現市民会館	新たな劇場 (古沢公園・市民会館A)	新たな劇場 (アスナル金山A)
基本的な考え方	現市民会館の搬出入のしやすさを継承・発展させつつ、まちに開かれた劇場を目指すため、1階部分は共通ロビー、にぎわい・交流スペースを主とし、舞台への搬出入は縦動線を整備する。		第3ホールは駅前複合施設の上部階への整備が想定されるため、スムーズな搬出入のために大型EVを設置する
搬出入車両	11tトラックに対応するが車両が建物内に収まらない	大規模公演に対応できるよう複数台の11t ウイングルーフトラックの搬出入に対応	大規模公演に対応できるよう複数台の11t ウイングルーフトラックの搬出入に対応
搬出入方法	1階の舞台レベルで直接搬出入が可能	1階をにぎわい・交流スペース等でまちに開くため、大型EVを設置して上層階に搬出入する	大型EVを設置して上層階に搬出入する
荷捌きスペース	舞台裏までトラックが寄り付けるため小スペースの荷捌き空間	大型EVで効率よく搬出入を行うため、舞台・楽屋とのスムーズな動線と十分な荷捌きスペースを確保	大型EVで効率よく搬出入を行うため、舞台・楽屋とのスムーズな動線と十分な荷捌きスペースを確保
搬出入作業	・雨天、荒天時作業に難あり ・搬出入作業に伴う近隣への騒音に難あり	・雨天、荒天時作業に対応 ・搬出入作業に伴う近隣への騒音低減に配慮	・雨天、荒天時作業に対応 ・搬出入作業に伴う近隣への騒音低減に配慮
その他	技術諸室（調光操作室、音響調整室、投影室、フロントサイド投光室、シーリング投光室、フォロースポット室）を整備		技術諸室（調光操作室、音響調整室、投影室、フロントサイド投光室、シーリング投光室、フォロースポット室）を整備

2 整備計画

(11) 創造・活動拠点機能／交流機能を担う施設

	現市民会館	新たな劇場
基本的な考え方	文化芸術の創造、普及・育成、まちの拠点としての機能強化として「アーティストに開く」「市民に開く」「まちに開く」を目指す	
スタジオ	各リハーサル室は大ホール・中ホールの舞台面積の半分程度の広さにとどまる	・大スタジオは立稽古が可能な第1ホール舞台と同等の広さ ・中スタジオは第1ホールの音反射板設置時の演奏エリアと同等の広さ
		・音楽、演劇、ダンス等の練習の場として整備 ・先進的な設備を備え、各ホールのリハーサルのほか本番利用にも対応可能 ・本番利用や電子楽器の練習にも対応可能な防音・遮音性能に配慮した構造 ・ホールの楽屋や会議等にも使用できるよう動線に配慮 ・倉庫、更衣室等を整備
練習室		・音楽、演劇、ダンス等の練習の場として整備
		・電子音楽の練習にも対応可能な防音・遮音性に配慮した構造 ・ホールの楽屋や会議等にも使用できるよう動線に配慮 ・倉庫、更衣室等を整備
会議室	・各種会議や研修等、多目的な用途に利用 ・ホールの楽屋にも使用できるよう動線に配慮 ・倉庫等を整備	

2 整備計画

(11) 創造・活動拠点機能／交流機能を担う施設

		現市民会館	新たな劇場
基本的な考え方		文化芸術の創造、普及・育成、まちの拠点としての機能強化として「アーティストに開く」「市民に開く」「まちに開く」を目指す	
共通ロビー		・ まちのにぎわいや回遊性向上に寄与していない ・ 本番公演がない時間は集客性がない	・ まちの回遊性を高めるため、通り抜け可能な空間とする ・ 鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる常にかかれた場所とする ・ 劇場全体のロビー空間として来館者が迷わずに各諸室にたどり着ける明快な動線計画とする ・ 開場前や終演後に観客が滞留できる十分な広さとする ・ 椅子やテーブル等を設置し、来館者が自由に過ごせるようにする
にぎわい・交流スペース	イベント・コミュニティスペース		・ 共通ロビーに面してイベントスペースを設ける ・ ミニコンサートや展示等、市民活動で利用できる広さや設備とする ・ アーティストが集い、交流・創造するスペースや市民が気軽に文化芸術に触れることができるギャラリー等を配置する
	飲食・物販スペース	カフェ・レストランがあるが、本番公演がない時間は集客性がない	・ 共通ロビーや通りに面して、市民の来館を促すショップ等や来館者がくつろぎ、交流することができるカフェ等の併設施設を配置し、ホールでの催しが無い時にも市民が集い憩えるスペースとする ・ 併設施設の搬出入のルートに配慮する
	情報スペース	市民会館の関連情報のチラシ配架のみ	・ 共通ロビーに面して公演情報や市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約発信する情報スペースを設置

2 整備計画

(12) 周辺環境との関係

ア ランドマーク性

古沢公園・市民会館エリアに整備する劇場は、国内外から金山に訪れる多くの人を劇場へと導く金山駅前のランドマークとなる魅力的な外観を備えた建物とします。また、施設配置や空間計画等の工夫により、周囲の歩行空間や公園・オープンスペースに圧迫感を感じさせない景観、デザインとなるよう配慮します。

イ 公園・オープンスペース

新たな劇場の北側には地域の公園としての機能を維持しつつ、開かれた劇場との一体感を持つ魅力的な公園として古沢公園を再整備します。また、敷地内に誰でも気軽に利用でき、文化芸術活動の場として利用できるオープンスペースを配置します。

ウ 車両出入口

金山駅周辺地域におけるウォークブルなまちの象徴となる、シンボル軸の歩行者動線に配慮し、古沢公園・市民会館エリアの西側には、新たな劇場の搬出入車両の出入口や来館車両の出入口を配置しないよう検討します。

古沢公園・市民会館エリアの一街区化にあわせ、シンボル軸を通過する古沢公園駐車場の現在の出入口は移設も含めて検討します。

2 整備計画

(13) その他配慮すべき課題

ア インクルーシブな施設整備・運営

全ての人が受け入れられ参加できる、誰一人排除しない（されない）劇場を目指します。

- ・ 高齢者、障害者、子どもなども含む誰もが安全に支障なく施設を利用できるよう、施設整備・運営の両面でユニバーサルデザインへの配慮を十分に行います
- ・ 障害者や小さな子どもと一緒に鑑賞可能な多目的室の整備や車いす利用者の鑑賞席の位置など、利用者特性に応じた多様なニーズに対応します
- ・ 誰でも簡単に施設予約や公演情報の入手ができるよう、アクセシビリティに配慮した運営サービスを目指します

イ 感染症パンデミック時の対応

新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響は幅広く、劇場施設のあり方にも一石を投じました。新たな劇場には、感染症パンデミック時の公演にも対応できる考え方を導入します。

- ・ ストリーミング配信など映像や通信技術の積極的な活用を図ります
- ・ 将来のデジタル技術革新にも対応できる拡張性と更新性を考慮します
- ・ 高い換気能力を持つ高機能な空調設備の導入を検討します
- ・ チケットレス入場など施設内の非接触化を検討します
- ・ 内装材等への抗ウイルス性能を有する素材の採用等を検討します

2 整備計画

(13) その他配慮すべき課題

ウ 災害時の対応

金山駅周辺地域は来街者も多く、大規模な災害が発生した場合には多くの帰宅困難者が見込まれます。さらに、今後の金山駅周辺のまちづくりに伴う来訪者の増加も含めた対応を検討する必要があります。

- ・金山駅周辺の帰宅困難者の退避施設として、新たな劇場の共通ロビーに加え、ホワイエやスタジオ等の開放についても検討します。
- ・帰宅困難者が滞在した場合に対応できるだけの量の防災関連備品を倉庫等に備蓄します。また、24時間を超える帰宅困難者の受け入れについても検討します。
- ・発災時には新たな劇場の両エリアで密に連絡・調整しながら、帰宅困難者の柔軟な受け入れを行います。

エ 環境への配慮

新たな劇場は大空間を有する施設であることから、整備時における環境への配慮だけでなく、運用時における環境負荷低減も考慮した計画とします。

- ・温室効果ガスの排出削減のため、建物の省エネルギー化をはじめ太陽光など再生可能エネルギーの導入を積極的に検討します。
- ・雨水の積極的な活用や高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図ります
- ・公園やオープンスペースの整備にグリーンインフラを取り入れます

3 管理運営計画（案）

- (1) 事業計画の基本的な考え方（再掲）
- (2) 新たな劇場の今後の事業展開のイメージ（案）
- (3) 開館準備計画（案）
- (4) 運営組織の考え方（案）
- (5) 運営主体パターン（案）
- (6) 専門家の登用（案）
- (7) 運営組織の構成（案）
- (8) 広報宣伝の考え方（案）
- (9) 施設の維持管理の考え方（案）
- (10) 管理運営に関する収支計画（案）
- (11) 事業の評価（案）

3 管理運営計画

(1) 事業計画の基本的な考え方（再掲）

ア 事業分類の考え方

新たな劇場の担う事業を「貸館事業」と「自主事業」に分類します。

イ 貸館事業の事業方針

内容	・ 実演団体やプロモーター、地域の文化芸術団体等に施設を貸し出す事業 ・ 市民へ多様な鑑賞機会を提供するため、積極的にプロ公演への貸し出しを誘致（戦略的貸館事業） ・ 地域の文化芸術団体等への積極的なサポートを実施
事業方針	ホール需要を満たすことを第一としつつ、主体的な貸館運営とするために、貸館事業を「施設利用サービス事業」と捉え、次の3つの方針を軸として検討します。 貸館事業は単に施設を貸し出すだけでなく、積極的に芸術性の高い公演を誘致したり（戦略的貸館事業）、施設利用者へより良い利用方法を提案する等、高質な貸館事業の実施に努めます。
	【方針Ⅰ】文化芸術の裾野拡大につながる利用の拡大 ・ 設置目的の達成に資する柔軟な利用規則の検討 ・ 人々の興味を誘発する、話題性のある演目の積極的な利用促進
	【方針Ⅱ】アーティストの多様な創造活動の受け皿 ・ 先駆的/実験的な試みを伴う創造活動に対する施設利用の積極的促進 ・ 多様な演出に対応する、柔軟なサービスの提供
	【方針Ⅲ】地域文化芸術団体等への積極的なサポート ・ 市民に寄り添った居心地の良いサービスの提供 ・ 劇場の特性を踏まえたより良い利用方法の提案

3 管理運営計画

(1) 事業計画の基本的な考え方（再掲）

ウ 自主事業の事業方針・事業分類

内容	・施設運営者が主催する舞台芸術を主とした文化芸術に関する事業 ・「共催」や「提携」など、実演団体やプロモーター等と連携し芸術性や質の高い公演を実施することを含む ・ホールだけでなく、諸室や、施設全体あるいは金山のまちとの連携を想定した事業を実施
事業方針	上位計画や、新たな劇場の基本理念を踏まえ、ホールや諸室、施設全体あるいは金山のまちと連携して実施する自主事業の基本的な考え方について、次の4つの方針を掲げます。
	【方針Ⅰ】幅広い世代の興味を誘発する多様な事業の展開 ・多角的なアプローチにより、幅広い世代へ鑑賞機会を提供
	【方針Ⅱ】文化芸術活動における共創を促進 ・人と人、施設と施設等の「連携」を生み出し、市民が新しい劇場体験を享受できる、多様な文化芸術活動を促進
	【方針Ⅲ】文化力を底上げする仕組みの構築 ・これからを担う若手人材の育成や、シニア世代の文化活動サポートなど、多くの市民が劇場を身近に感じられ、毎日が豊かになる機会の創出
	【方針Ⅳ】開かれた劇場としての交流機会の創出 ・誰もが気軽に集える交流機会を提供し、金山のまち独自のにぎわいを創出

3 管理運営計画

(1) 事業計画の基本的な考え方（再掲）

エ 自主事業分類と内容および展開エリアのイメージ

基本的な考え方	分類	内容	想定エリアイメージ
【方針Ⅰ】 幅広い世代の興味が誘発する多様な事業の展開	鑑賞事業	・バラエティーに富んだ演目で、より多くの人々の興味が誘発される公演を実施 ・他都市との共同・ツアー連携事業を推進し、鑑賞機会を拡充 ・気軽に文化芸術を体感できるオンライン配信を展開	・第1ホール ・第2ホール ・第3ホール
【方針Ⅱ】 文化芸術活動における共創を促進	創造・活動事業	・新たな劇場を中核とした、アーティスト同士の交流促進/施設間の連携促進 ・新進アーティストやエンジニア等と連携し、先端芸術表現の場を提供 ・障害の有無や年齢、国籍等を問わない、多様な価値観を持つ表現活動を促進	・諸室
【方針Ⅲ】 文化力を底上げする仕組みの構築	普及・育成事業	・市内文化施設と連携した、次世代の実演家・文化芸術を支える人材の育成 ・子どもからシニアまで、老若男女を対象とした新たな体験・挑戦の場を提供 ・オンラインを活用した、世代や時間、場所を問わず学べる機会の提供	・第3ホール ・諸室 ・新たな劇場全体 ・金山駅周辺地域
【方針Ⅳ】 開かれた劇場としての交流機会の創出	交流・まちづくり事業	・金山駅周辺地域の活性化、回遊性を生み出すフェスティバル等の開催 ・オープンスペース、ロビー等で気軽に立ち寄れるイベント等の開催 ・金山独自のカルチャーを活かした新たなデスティネーションの構築	・施設全体 ・金山駅周辺地域

3 管理運営計画

(1) 事業計画の基本的な考え方（再掲）

オ 有機的連携の基本的な考え方

- ・市内文化施設の設置目的や役割分担を明確にするとともに、新たな劇場を中心とした文化施設間の有機的な連携により、文化芸術に対する市民の興味・関心の拡大、文化団体等の多様な文化活動の促進を図ります。
- ・新たな劇場を「ハレ舞台・名古屋の文化芸術発信拠点」として、市内文化施設の中核に位置付け、芸術創造センターや青少年文化センター等と連携して創造された文化芸術活動が新たな劇場へ集約され、市民文化がより活発に発信される流れや、反対に新たな劇場で創造された文化芸術が、文化小劇場などの地域拠点を通じて市民の身近なところへと広がっていく仕組みを構築します。
- ・国内外の他都市の大規模劇場との共同制作やツアー連携により、劇場同士の横のつながりを強化します。
- ・有機的連携の実現のために、名古屋版アーツカウンシルの推進を担う「クリエイティブ・リンク・ナゴヤ」をはじめ、様々な主体との連携や役割分担について、引き続き検討を進めます。



3 管理運営計画

(2) 新たな劇場の今後の事業展開のイメージ（案）

事業においては、事業期間（PFI方式の場合は15年間程度を想定）をひとつのサイクルとして考え、**①プレ期**、**①周知・普及期**、**②定着・育成期**、**③成長・発展期**と確実にステップアップしながら有機的連携体制を構築し、新しい文化芸術を発信してきます。

○有機的連携に向けた事業の進め方 ※事業エリアの開業時期によって異なる

新たな劇場開館前

①プレ期

計画段階より全市的な広報&情報システムの整備を検討。開館前のプレイベントを通して金山全体のまちづくりや市内文化施設や文化団体との連携準備を進める。

新たな劇場開館後

①周知・普及期

市内文化施設や文化団体と連携しながら事業を展開し、新たな劇場のミッションや理念を体現すると同時に、新施設の使い方を市民に伝えていく。

②定着・育成期

有機的連携の定着及び文化活動の活発化を目指す。第3ホールでは新たな劇場の独自性を発信する自主事業を実施し、各ホールの特徴を打ち出していく。

③成長・発展期

新たな劇場に蓄積されたノウハウやネットワークを活かし、他都市大規模劇場との大型提携事業を展開。第3ホールでの実験的コンテンツ公演等が定着、普及し、国内外の新進気鋭アーティストとの共同制作を積極的に展開。

3 管理運営計画

(3) 開館準備計画（案）

計画中や建設中から新たな劇場の誕生を市内外に広く周知するため、**プレ期において各種イベントの実施を検討します**。金山駅周辺地域では、古沢公園・市民会館エリアやアスナル金山エリアの再整備期間中も文化芸術に触れられる機会やまちのにぎわいを維持する事業、市内文化施設等と連携したイベントや開館後の通年事業につながる事業、現場見学会など、開館に向けた機運を醸成する多種多様な取り組みを検討します。

○想定する開業準備の取り組み ※事業エリアの開業時期によって異なる

新たな劇場全体

- 新たな劇場のHP開設
- 新たな劇場の劇場名称公募・公表
- 新たな劇場のロゴマーク公募・公表

古沢公園・市民会館エリア

- 第1・第2ホールの施設ガイドブック発行
- 第1・第2ホールのこけら落とし公表
- 第1・第2ホールの利用者説明会の実施
- 第1・第2ホールのプレイベント実施
（工事現場ツアーや参加型イベントなど）

アスナル金山エリア

- 第3ホールの施設ガイドブック発行
- 第3ホールのこけら落とし公表
- 第3ホールの利用者説明会の実施
- 第3ホールのプレイベント実施
（ホールの独自性を発信するイベントなど）

- 新たな劇場全体の施設ガイドブック発行
- 3つのホールや金山駅周辺地域全体を活用し、全街区完成に向けたプレイベントの実施

3 管理運営計画

(4) 運営組織の考え方（案）

新たな劇場が本市文化施設の中心となり、市内文化施設と有機的連携体制を構築できる運営組織とするために、次の方針を検討します。

ア 事業運営体制の構築

- ・新たな劇場のミッションである「文化芸術の裾野拡大」の達成に資する、安定して継続的に事業を提供し続けることができる体制
- ・市民へ多様な鑑賞機会を提供するため、積極的に芸術性の高い公演を誘致できる（戦略的貸館事業）ノウハウを持った体制
- ・「開かれた劇場」の実現のために、まちをはじめとした様々な団体との連携のコーディネートを担いつつ、自主事業を実施していくことができる体制
- ・文化施設の有機的連携の核としての役割を実現できる体制
- ・市内文化施設のみならず、他都市施設、地域の企業・団体等とも連携できる体制

イ 専門性を持った人材の配置

- ・新たな劇場の理念を実現するための事業を先導できる高い専門性を持った人材の配置
- ・文化芸術活動の活性化や水準向上を図るため、地域文化芸術団体等への支援を実施できる専門人材の配置

3 管理運営計画

(5) 運営主体パターン（案）

新たな劇場において想定される運営主体パターンは次の表のとおりです。

新たな劇場が果たすべきミッションや役割等を踏まえ、パターン①を軸に検討を進めます。

	パターン①		パターン②		パターン③	
維持管理	指定管理者		指定管理者		指定管理者	
舞台技術						
貸館事業						
自主事業			直営・公益法人等へ委託		直営・公益法人等へ委託	
概要	自主事業を含め、全てを指定管理者が運営する		自主事業のうち、市の文化施策的側面の強いものを、市の直営または本市の文化施策を実現する公益法人等への委託により実施する		自主事業の全部を、市の直営または本市の文化施策を実現する公益法人等への委託により実施する	
自主事業のクオリティ	◎	民間事業者のノウハウを活用した新しい事業が期待できる	○	指定管理者が行う事業について、民間事業者のノウハウの活用が期待できる	△	事業に民間のノウハウを活用できない
文化政策の実現	△	事業の仕様を具体的に表さないと市の文化政策の反映がされにくい	○	直営等で実施する事業について、市の文化政策の反映が容易	◎	市の文化政策の反映が容易
自主事業と貸館事業の連携	◎	自主事業と貸館事業の連携が容易	△	直営等で実施する事業と、貸館事業の連携が困難	△	自主事業と貸館事業の連携が困難
自主事業の継続性	△	指定管理者が変更されると事業の継続性が失われる恐れがある	○	直営等で実施する事業について、指定管理者が変更されても事業の継続性が担保される	◎ △	指定管理者が変更されても事業の継続性が担保される 単年度予算のため、事業等の長期計画が立てにくい

3 管理運営計画

(6) 専門家の登用（案）

新たな劇場のミッションである「文化芸術の裾野拡大」を達成するためには、独自の事業展開と同時に、市内の連携を促すことが求められます。専門家の活用を検討するにあたり、事業の専門家を次のとおり定義付けます。

今後、事業計画（貸館事業・自主事業）に併せて、それを実現させるための最適な専門家の体制を検討していきます。また、舞台技術、広報宣伝、経営等における専門家のあり方についても、併せて検討を進めます。

専門家（仮称）	期待する役割・効果	新たな劇場・市内における位置づけ
総合 プロデューサー	・ 貸館事業、自主事業全般における 新たな劇場の基本理念の達成	・ 事業の運営に関して「芸術面と財政面」2つの視 点から事業全般の企画・推進・助言を担う人材 ・ 限られた専門領域ではなく、アートマネジメント 専門家として横断的かつ多角的な視点を持つ人材 が望ましい
テクニカル ディレクター	・ 幅広い世代の興味を誘発する多様な 事業の展開 ・ 文化力を底上げする仕組みの構築	・ テクニカルやメディアアート等の専門技術者とし て、主に第3ホールで行われる最先端アートの研究 ・ 開発の指導・助言、及び国内外との共同事業や連 携事業等を推進する人材
コーディネーター	・ 文化芸術活動における共創を促進 ・ 開かれた劇場としての交流機会の創出	・ 「新たな劇場とまちをつなぐ専門家」として、ま ちづくりや地域団体等及び名古屋版アーツカウン シルとの連携を推進する人材

3 管理運営計画

(7) 運営組織の構成（案）

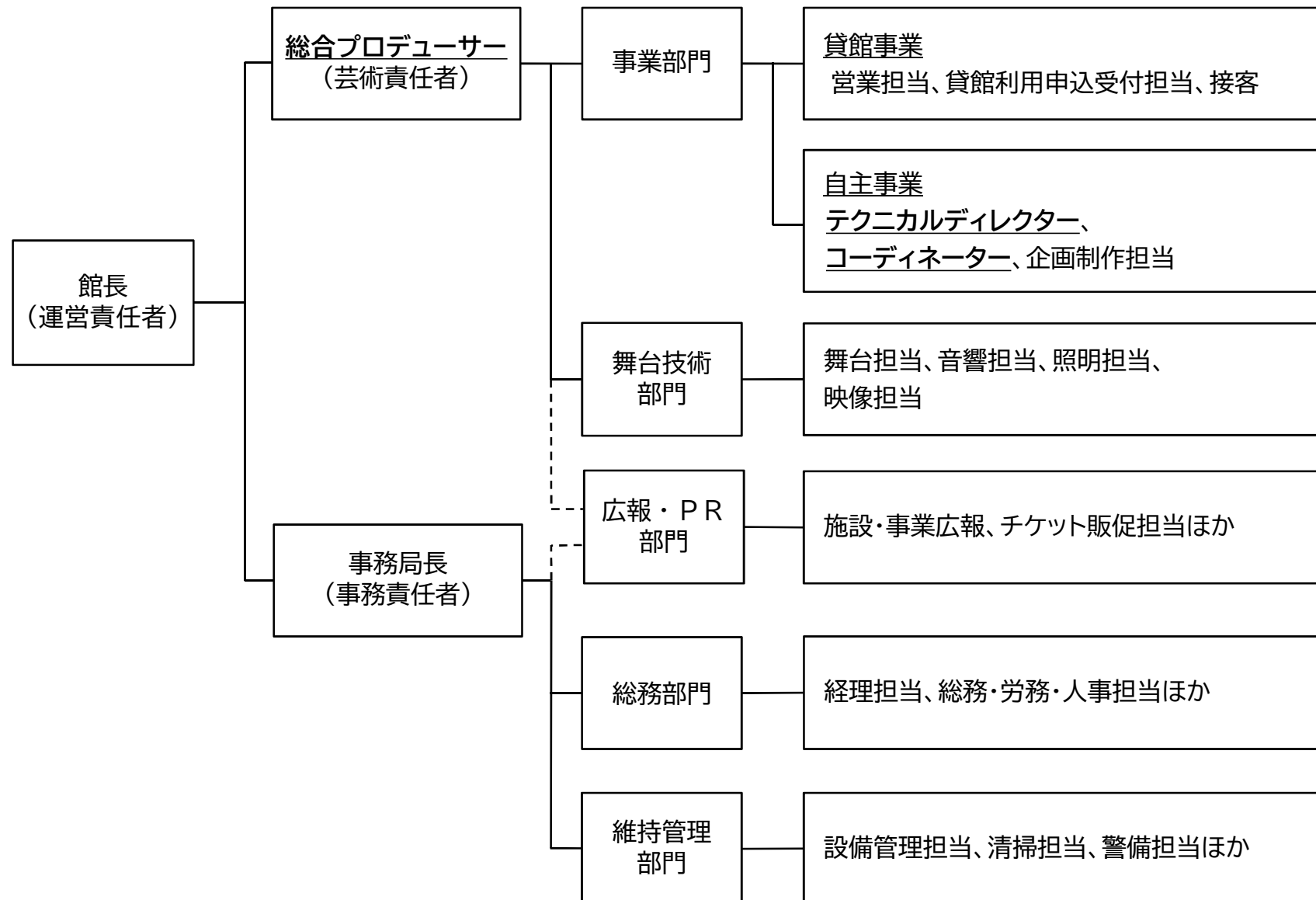
新たな劇場の運営組織として、次の構成を想定します。立地と開館時期が異なる古沢公園・市民会館エリアとアスナル金山エリアを一体的に運営できる組織体制については、今後詳細な検討を進めます。

部門名	概要
事業部門	事業計画立案、企画制作、当日の運営（受付・案内）、貸館業務を担当
舞台技術部門	舞台機構、音響、照明、映像の操作や管理、利用者への技術サポートを担当
広報・PR部門	施設HPの管理、チラシ・ポスター等の作成、その他広報宣伝を担当
総務部門	施設にかかる財務、経理、総務・労務・人事を担当
維持管理部門	ビルメンテナンス、テナント管理、保安警備管理等を担当

3 管理運営計画

(7) 運営組織の構成 (案)

○組織構成のイメージ



3 管理運営計画

(8) 広報宣伝の考え方（案）

ア 基本的な考え方

事業の告知だけでなく新たな劇場の存在・魅力を広く浸透させると同時に、ターゲットにピンポイントで発信する広報宣伝の仕組みを検討します。

イ 全市的プラットフォームによる情報集約

- ・継続性・公共性のあるワンストップの全市的情報プラットフォームの構築
- ・名古屋圏域のイベント情報やアーティスト情報、施設概要等の情報を横断的に集約し発信できる仕組みの構築
- ・アスナル金山エリア（第3ホール）の駅前立地と民間との複合施設であることを最大限に活かし、金山駅周辺地域全体の回遊性向上につながる情報を発信

ウ アーティストの多様な創造活動の受け皿

- ・最新技術を駆使し、高齢者が使いやすい予約システムや、若者が気軽に購入できるチケットシステム等を導入
- ・AI技術によるビッグデータ分析等の手法により、特定のターゲット層へ向けた告知や、需要に応じたストリートビジョン広告等を積極的に展開

エ 多種多様なメディアの活用

- ・文化芸術に関心が薄い方々にもイベント情報が届くよう、アプリやSNS等のネットワークを活用した広報を実施
- ・地元テレビ局や動画配信サービスと連携し、「劇場×映像」の新しい告知方法を開発し発信

3 管理運営計画

(9) 施設の維持管理の考え方（案）

ア 基本的な考え方

施設の「安全確保」「快適空間」「ランニングコスト縮減」「設備・備品の長寿命化」の4つの視点より、事後保全、修繕が極力発生しないよう、予防保全による保守修繕計画を立案し、維持管理を行うことを想定しています。

イ 保守点検、修繕・設備更新の考え方

各種機器などの機能が常時正常に維持できるよう、日常の徹底した安全点検や計画に沿った小規模修繕など、施設や設備の長寿命化の方策を検討していきます。耐用年数、更新時期、更新費用等を調査・検討するなどして機器毎に修繕・更新の考え方を示します。特に第3ホールについては、多様なジャンルや新演出に対応し続けられる施設として、最新の機能と高い性能を備えられるよう、将来性・拡張性のある中長期修繕計画を策定することを想定しています。

3 管理運営計画

(9) 施設の維持管理の考え方(案)

ウ 施設の維持管理における役割分担案（PFI方式、事業期間15年とした場合）

項目	市	事業者
中長期修繕計画の策定		○
建築保全業務（予防保全を含む）		○
エリア内オープンスペース等の維持管理業務		○
備品及び消耗品の管理・更新業務		○
施設、設備の修繕（原型を変ずる修繕及び模様替えを除く）		○
施設、設備の修繕（原型を変ずる修繕及び模様替え） ※当初事業期間においては発生しない想定	○	

3 管理運営計画

(10) 管理運営に関する収支計画（案）

ア 基本的な考え方

貸館収入を重要な財源のひとつと捉え、戦略的貸館等を通してこれまで以上に多様なジャンルの利用者獲得を目指します。また、助成金など外部資金を積極的に活用し、充実した自主事業展開を目指すことを想定しています。

イ 管理運営に関する収支項目

管理運営に関する収支イメージ（単年度）は次の図のとおりです。効率的な運営を通して経費削減に努め、新型コロナウイルス等の感染症拡大時や災害時などの緊急事態でも健全な施設運営を維持できる収支計画を検討します。

収入	指定管理料	利用料金収入	助成金	自主事業 入場料収入		
内訳	運営管理に係る総経費から利用料金収入及び 自主事業入場料収入・助成金を差し引いた金額	施設・備品 の貸出料金	国の機関、民間 企業等からの補 助金、助成金等	チケット代、 参加料等		
支出	人件費	維持管理費			事業費	
		管理費	光熱水費	事務費	修繕費	
内訳	職員給与等	設備点検、清 掃、警備等の 費用	電気、水道 ガス等の 使用料	通信費、 消耗品費等	小規模修繕の 費用	自主事業経費

3 管理運営計画

(11) 事業の評価（案）

ア 基本的な考え方

新たな劇場の基本理念を達成するためには、事業評価等による施設の運営状況の確認・改善や、事業方針の検討・見直しを定期的に行う必要があると想定しています。他都市事例等も参考に、名古屋版アーツカウンシルによる評価可能性の検討等、評価を行う体制や評価基準などを今後幅広く検討していきます。

イ 評価内容（案）

- ・ 自主事業や貸館事業の実施を通じて、基本理念の達成にどの程度役割を果たしているか等、施設としての役割に関する評価
- ・ 施設利用者へのホスピタリティやサービス、施設の安全体制など、施設管理運営に関する評価
- ・ 運営者の経営体制や経営努力など、経営（マネジメント）に関する評価 など

4 今後の予定

4 今後の予定

基本計画策定までの流れ

第2回 名古屋市新たな劇場の整備・運営等検討懇談会（今回）



基本計画（案）の議会への報告



市民意見の募集



名古屋市新たな劇場の基本計画の策定（11月末ごろ）